

ご挨拶

株式会社バルカー
代表取締役社長 兼 CEO

瀧澤 利一



平成31年の初春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。
読者の皆さまには日頃から本誌をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、わが国の経済は円安、企業収益の向上、個人消費の回復等を反映して、上半期は堅調に推移いたしました。昨年も後半になってからは米中の経済軋轢の影響、人手不足など雇用環境も影響して、企業の先行きに対する見方は必ずしも楽観視できる状況ではありませんでした。そのような事業環境下で、民間企業はコンプライアンスの遵守や、品質の向上に対しては継続して注力しながら、自らの顧客に対して新たな付加価値の提供を行うために、過去から引き継がれている固定的な発想を打破して、新たなイノベーションを創造して行くことが強く求められております。

さて、多くの読者の皆さまには既に様々なメディアでお伝えしておりますように、当社は昨年10月1日に株式会社バルカーへと社名を変更いたしました。当社グループは、創業から現在まで90余年に亘り「Value (価値)」と「Quality (品質)」に対するあくなき追求を続け、シールエンジニアリングのパイオニアとして、世界中のあらゆる産業基盤を支えてまいりました。新社名は、この「シールエンジニアリング・サービス」を基軸として、グローバルでの事業展開を推し進める決意を反映したものであることを、読者の皆さまにおかれましても、今一度御確認をいただきたいと思えます。当社グループは、この社名変更の機会を第2の創業機会として定義づけ、H&Sカンパニーとして生まれ変わる強い決意を持ち、顧客視点に立った製品とサービスで構成されるトータルでのソリューションの開発を行い、顧客の皆さまに提供してまいります。

昨年からはスタート致しました第8次中期経営計画「New Valqua Stage Eight (NV・S8)」では、既に前段の中でも述べましたように、これまでの歴史の中で培ってまいりました独創的技術を更に発展させた「シールエンジニアリング・サービス」のソリューションを基軸として、顧客への新たな価値提供を目指したH&Sの活動が、当社グループ事業における成長をしていくための中枢と位置付けております。そして、その実践においては、過去の慣習的な事象の捉え方や、観念的かつ画一的な思考に囚われることが無いように心がけ、顧客の皆さまの周囲を取りまく挑戦に対し基本に立ち戻った分析と考察を行い真の顧客ニーズを把握して、「創造的な破壊」を創出する技術開発を行なうことにより、皆さまと共に健全で継続的な成長を実現してまいりたいと願っております。

最後になりましたが、今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げますとともに、読者の皆さまの益々の発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。